

国際電気標準会議（IEC）「トーマス・エジソン賞」を受賞

2023年11月28日
一般財団法人電力中央研究所

一般財団法人電力中央研究所（理事長：平岩芳朗、本部：東京都千代田区）は、このたび、**財満英一名誉研究アドバイザーが国際電気標準会議^{※1}（IEC）の「トーマス・エジソン賞」を受賞したことをお知らせいたします。**

「トーマス・エジソン賞」は、IECに国際議長や国際幹事として参画し、専門委員会などの運営や国際規格の策定および促進において、顕著な成果・貢献が認められた個人を表彰するものです。2023年は世界で4名が本賞を受賞し、2010年の表彰開始以降、**日本国内の電気事業関係者からは初めての受賞**となります。

今回の受賞は以下の活動が評価されたものです。

- ・ IEC内でUHV（Ultra High Voltage: 超々高電圧）交流送電システム^{※2}の規格策定を担当する「TC122^{※3}」の設立に貢献し、2013年の設立時から国際幹事として本委員会の発展に尽力
- ・ 2007年から国際大電力システム会議（CIGRE）と協調した、UHVの標準電圧^{※4}や変圧器などの個別機器のUHV仕様の標準化活動を推進し、TC122の設立に結び付けるとともに、わが国の本技術委員会幹事国就任に大きく貢献
- ・ 2013年の国際幹事就任後は、4つの作業グループ（WG）を新たに設置し、UHVの系統設計、変電所・送電線設計など、8つの国際規格発行に携わり、TC122の発展に尽力

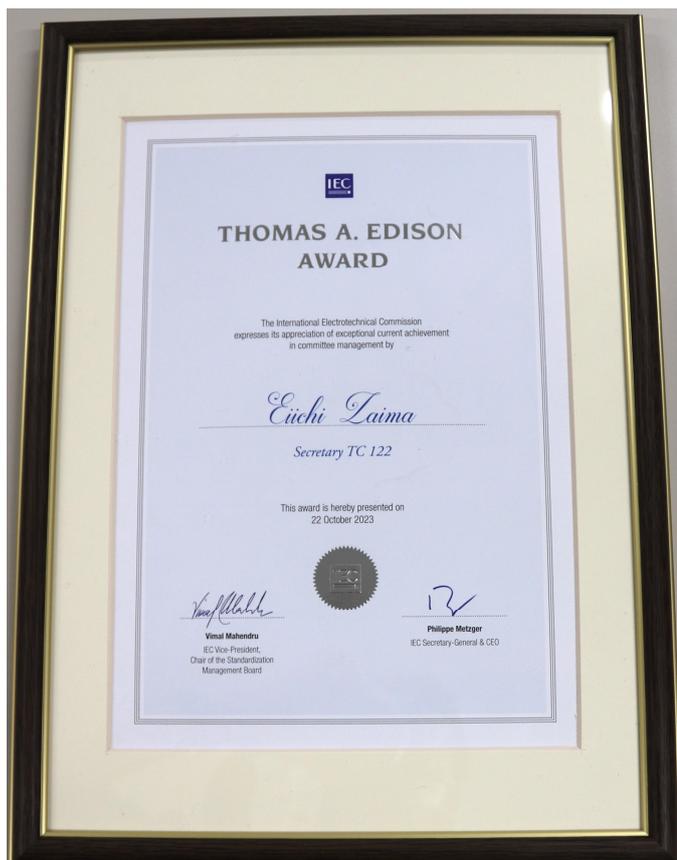
わが国関係者がIECの各種委員会などの場で「UHV交流送電システム」の規格策定、国際標準化に向けた議論を主導的に進めてきたことにより、わが国が長きにわたり開発に努め、強みを有する技術であるUHV送変電技術の国際的な規格化が達成されました。その結果として、大容量送電が将来必要となる国々への技術的貢献、わが国企業の本分野での国際競争力および存在感の向上に繋がることが期待されます。



※財満英一プロフィール

電力中央研究所名誉研究アドバイザー、独立行政法人製品評価技術基盤機構客員調査員。

東京電力株式会社でUHV送変電技術とIECの国際標準化活動に長年従事。これまで、IECにおいて、TC122国際幹事だけでなく、送電・配電の諮問委員会（ACTAD）委員（2015年-）、TC99MT9主査（2014年-2022年）として絶縁協調適用ガイドの改定等に従事。IEC1906賞^{※5}を3度受賞（2008年、2015年、2023年）。工学博士、電気学会フェロー、IEEEフェロー。



IEC より授与された「トーマス・エジソン賞」の賞状とメダル

- ※1: 電気および電子技術分野の国際規格の策定を行う国際標準化機関
- ※2: 長距離かつ大容量の電力送電が可能な技術
- ※3: 226 ある技術委員会 (Technical Committees) のうち、UHV 交流送電システムの計画、設計、運転、保守等のシステム面からの国際標準化の策定などを担当。幹事国：日本、議長国：中華人民共和国
- ※4: 電力供給時の最高電圧。わが国の UHV では 1,100kV
- ※5: IEC 専門業務における最近の業績を対象に電気・電子技術の標準化および関連活動に大きく貢献したと評価される個人を表彰するもの。2003 年 2 月設置

以 上

本件に関するお問合せ先
広報グループ 担当：林田、藤本
TEL：03-3201-5349（広報グループ直通）
E-mail：hodo-ml@criepi.denken.or.jp

※本件は、経済産業記者会、経済産業省ペンクラブ、エネルギー記者会で資料配布しております。